

# 北黄瀬遺跡第 2 次発掘調査 現地説明会資料

日 時 平成 14 年 10 月 6 日(日曜日)13:30~

- 1 . 調査名称 北黄瀬遺跡第 2 次発掘調査
- 2 . 調査地 滋賀県甲賀郡信楽町大字<sup>きのせ</sup>黄瀬<sup>かく</sup>字角
- 3 . 調査面積 4,500 m<sup>2</sup>
- 4 . 調査期間 平成 13 年 2 月 20 日 ~ 平成 14 年 10 月上旬 (予定)
- 5 . 調査主体 信楽町教育委員会 教育長 藤井 克宏
- 6 . 調査指導 紫香楽宮跡調査委員会
- 7 . 調査担当 信楽町教育委員会 文化財調査室

## 8 . 調査位置と概要

調査地は、<sup>はやとがわ</sup>隼人川北岸の平地、史跡紫香楽宮跡が所在する平野部の西北に位置し、紫香楽宮中心部の宮町遺跡からは西へ 1 キロ、南へ 1.2 キロ離れています。

今回の調査は、町道黄瀬北側線の西側 6,500 m<sup>2</sup>を対象に 2 月から行い、奈良 ~ 室町時代の井戸や溝を確認しました。

## 9 . 主な出土遺構

**井戸・作業場** … 第 2 トレンチの西で確認した大型の井戸で、方位を真北から約 2° 西にとります。

井戸の周辺は、作業場と考えられる、東西 8.96m (約 29 尺) × 南北 7.84m (約 26 尺) × 深さ約 0.3m の掘形を設け、床面を厚さ 0.1m の整地土で固めています。また掘形の周囲は幅 0.2 ~ 0.3m 程度整地せずに埋め残し、作業場内の排水溝の役割を果たしていたようです。

作業場では、東西 3 間(7.75m) × 南北 2 間(5.35m)の<sup>きりつまづくり</sup>切妻造の建物の柱跡を確認し、井戸に伴う建物があったことがわかりました。また、建物の中央付近で作業場掘形の北辺が崩れていることから、建物の北側から井戸に出入りしていたことが想定されます。

井戸は、分厚いヒノキの<sup>まさめいた</sup>柱目板を<sup>やりがな</sup>槍鉋で丁寧に仕上げし、一辺約 2.0m (内法約 1.8m) × 深さ約 0.8m の方形横板組の形状で板材を上下 2 段に連結しています。

検出状況から考えると、井戸底から井戸枠上端までの高さは、1m 前後と推測でき、平面規模と比較すると極めて浅い井戸と考えられます。

各辺は掘形の東・南・北辺の三方からそれぞれ 2.92m、3.02m、2.92m の距離に位置していることから、作業場の空間が 10 尺等間隔になるよう意識し

た構造と考えられます。

また、枳板の組方工法が非常に緻密で堅牢に施工されている（横板は榫組した上に釘止めをし、切り込みの隙間にはクサビ状の薄板を差し込む。また上段と下段の接合は、溝を切り、落とし込み連結）ことやその大きさから特別な用途に使用されたと考えられます。

**排水溝** …… 掘形西辺の南側で、井戸に伴う排水溝と見られる幅 3.2～3.6m。深さ 0.4m、検出長 15.8mの溝を確認しました。

溝は途中で、西北へ方向を変えています。井戸の排水溝が屈曲する事例は、平城宮跡の発掘調査でもあることから、何らかの意図があったものと考えられます。

**埋設塞き止め板** …… 井戸の西側板より約 0.6m離れた場所で、南北方向に大きな板材を 3 枚組み合わせた遺構が埋設されていました。

遺構の方位は、真北から約 4°西にとり、板材は井戸の掘形を貫き、全長 8.8mを測ります。

板材を埋設するための掘形は幅 0.5～0.8mあり、整地土直下から始まることから、井戸の使用時には完全に埋められていたことは明らかです。

また、遺構埋土の切り合い状況から、井戸枳 中央板材 南・北端板材の順で設置され、井戸に関連した遺構と考えられますが、他の遺跡で出土した例はありません。

3 点の板材は、隣り合う木口を 0.3～0.5m重ね合わせ、中央の板材（板材 2 材質 スギ・板取 柾目）が最も長く 446cm、北端の板材（板材 1 材質 ヒノキ・板取 柾目）が 261cm、南端の板材（板材 3 材質 ヒノキ・板取 柾目）が 245cmを測ります。

また、いずれの板材も幅 64～71cm、厚み 7～12cmあり、手斧で加工した痕跡を全面に残し、板材 2 の東側には埋設する際、板を支えるために使用した杭が残っていました。

## 10. まとめ

### 1) 井戸の年代と性格

今回検出された井戸からは土器が出土していないので、土器から井戸の年代を推定できませんでしたが、埋土最下層から曲げ物の底板 1 点（ヒノキの柾目材）が出土しています。

年輪年代測定の結果、辺材を一部残した試料（Bタイプ）に分類され、残存している年輪の年代が西暦 668 年を示しています。

また、「埋設塞き止め板」の板材 1 が年輪年代測定の結果、Bタイプに分類され 661 年、板材 3 が、樹皮の残る試料（Aタイプ）に分類され、743 年秋（天平 15 年）の年代を得ています。

さらに、

井戸の規模が、極めて大きく、同様の規模をもつ遺構としては、平城宮跡

の内裏や、大膳職、造酒司、塙積官衛遺構（太政官とする説あり）などの中央の役所に集中すること。（平城京内の事例では奈良県立一条高校の敷地で1基確認されています。）

井戸枠を横板組にするという構造が、平城宮をはじめとする奈良時代の官衛遺構から多く見られること。

井戸や掘形の方位が、紫香樂宮の中心部であった「宮町遺跡」や平成12年度に滋賀県が実施した、「新宮神社遺跡」と同じ方位をとること。

「埋設塞き止め板」の伐採年代が、紫香樂宮の造営期間に一致すること。

（『続日本紀』に記載されている紫香樂宮の期間は、742年(天平14)～745年(同17)）から、紫香樂宮に関連した役所の井戸と推定できます。

また、「埋設塞き止め板」については、出土例がなく設置の目的は不明ですが、井戸枠板よりもさらに深く粘土層まで埋設し、透水層からの水の流失を堰き止める工夫がなされていることや地下水が流れる下流側に位置していることから、井戸の水位を保持・調節するために設置した。

必要な水量が確保できないため、塞き止めた。などが設置理由の一案として考えられます。

## 2) 紫香樂宮との関連

今回の調査地で、紫香樂宮に関連した役所の存在が確認できたことは、紫香樂宮の役所群が、宮町遺跡と国史跡紫香樂宮跡周辺だけでなく、予想以上の広い範囲に展開していたことが推測できます。

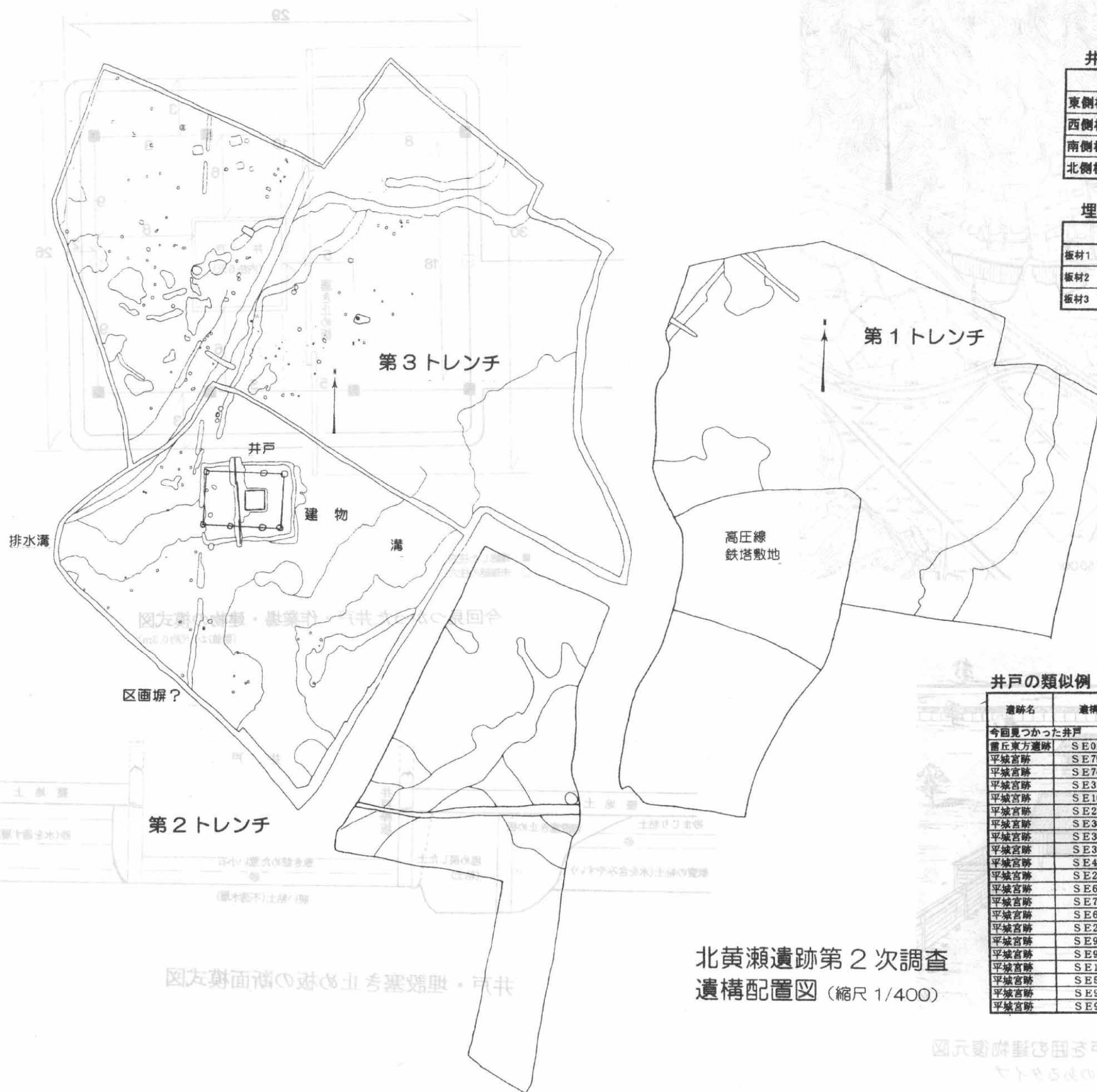
この遺跡の具体的な性格としては、井戸以外に奈良時代の遺構や出土遺物がほとんどないことを考えると

一般的な事務を行う役所ではなく、多人数で作業を行った木材加工作業場などの実務を担当する場所であった可能性。

人々が活動していた痕跡が乏しいことから、この区画を建設している途中で建設を放棄した可能性。

が考えられ、その実態の解明に向けては、周辺の発掘調査データの蓄積を待つてさらに検討することが必要です。

なお、今回の調査の年輪年代測定については、奈良文化財研究所の 光谷 拓実 古環境調査室長にご協力をいただきました。



井戸枠板の寸法

単位:cm						
	長さ(内法)	高さ	厚み(最小値)	木材のタイプ	最外年輪の年代	備考
東側板	196.8(180.0)	79.7	10.3(7.0)	B		ヒノキ
西側板	196.7(180.1)	70.5	8.2(6.4)			ヒノキ
南側板	197.3(180.4)	72.0	9.4(7.4)	B		ヒノキ
北側板	197.0(179.1)	76.0	9.3(6.4)			ヒノキ

埋設塞き止め板の板材寸法

単位:cm						
	長さ(内法)	幅(最小値)	厚み(最小値)	木材のタイプ	最外年輪の年代	備考
板材1	261.0	71.3(65.4)	9.5(7.5)	B	661	ヒノキ
板材2	445.8	63.7(63.7)	11.7(8.0)			スギ
板材3	244.5	67.5(66.8)	8.7(6.5)	A	743	ヒノキ

井戸の類似例

遺跡名	遺構名	規模	単位:cm	構造	時代	備考
		一辺の長さ( )は内法	深さ	平面形態	組形の形状	
今回見つかった井戸		197(180)	80	方形	横板組 釘止め組合せ	8C中頃
曹丘東方遺跡	S E 01	190(168)	260	方形	横板組 隅柱横棧止	8C末 小治田宮跡
平城宮跡	S E 7900	(165)	200以上	方形+丸形	横板組+くりぬき丸井筒	8C 内裏築地回廊
平城宮跡	S E 7400	(142)		方形	横板組	8C 朝堂院東
平城宮跡	S E 311	(225)		方形	横板組	8C 大膳職
平城宮跡	S E 168	(210)		方形	横板組 柄差し	8C 大膳職
平城宮跡	S E 272	(180)		方形	横板組	8C 大膳職
平城宮跡	S E 3046	(540x300)		長方形	横板組	8C 造酒司
平城宮跡	S E 3049	(280)		方形	横板組	8C 造酒司
平城宮跡	S E 3230	(200)		方形	横板組	8C 東院西辺
平城宮跡	S E 4886	(150)		方形	横板組	8C 埴積官衙南
平城宮跡	S E 2842	(100)	240	丸形	縦板組 太柄留	8C 埴積官衙北
平城宮跡	S E 6845	(135)		方形	横板組	8C 内裏東外郭
平城宮跡	S E 715	(120)		方形	横板組	8C 内裏東外郭
平城宮跡	S E 6166	(135)		方形	横板組	8C 馬寮
平城宮跡	S E 2600	(115)		方形	横板組 釘止め	8C 内裏東外郭
平城宮跡	S E 9600	(135)	110	方形	横板組	8C 東院西辺
平城宮跡	S E 9745	(130)		方形	横板組	8C 宮東北辺部
平城宮跡	S E 1247	(95)	130	方形	縦板組 隅柱横棧止	8C 宮西南隅部
平城宮跡	S E 5320	(60)	120	丸形	縦板組 隅柱横棧止+曲物井筒	8C 西方官衙
平城宮跡	S E 9210	(225)		方形	横板組	8C 1次大極殿
平城宮跡	S E 9295	(570x260)		長方形		8C 東院

北黄瀬遺跡第2次調査  
遺構配置図 (縮尺 1/400)